

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：34310

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590102

研究課題名(和文)社会デザイン学の展開

研究課題名(英文) Social Designs by Young Entrepreneurs

研究代表者

鵜飼 孝造 (Ukai, Kozo)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：00203498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は「社会デザイン」のコンセプトを学部生教育に適用し、学生たちの社会的実践に活かしていくことを目的とする。当初は、ニューヨークやシドニーの都市をフィールドとして、それを実践の手がかりにしようとしたが、学生たちの関心はライフデザイン(生活と仕事のありかた)やメディアデザイン(とりわけSNSによるコミュニケーション)に収斂していった。特に、一般企業への就職から起業にいたった学生の事例に取材することで、従来の大企業への就職による生活安定モデルが成立しなくなり、1) やりたいことを仕事にする志向、2) 親しい仲間の中での承認欲求、3) 1と2を結びつける装置としてのSNSの発達、を抽出できた。

研究成果の概要(英文)：This study tried to apply 'social design' concept to undergraduate students' social practices. For them, social design are considered to be divided to life design (family-work balance) and media design (especially social networking services). We had interviews with graduates who started their own companies. (1) We found that they attach the greatest importance to their natural motivation for work. (2) They ask for their intimate group's approvals, not organizations'. (3) They link their motivation with intimates' approval by social networking services.

研究分野：社会学

キーワード：社会デザイン ライフデザイン メディアデザイン キャリアデザイン

## 1. 研究開始当初の背景

大学および大学院で学ぶ社会科学においては、知識や方法の習得プロセスと、学生の社会経験や社会認識とのあいだに大きなギャップがあり、そのことが学習意欲を低下させ、ひいては社会への関心や参加を乏しくしている。本研究は、そのような状況の解決の糸口を見いだすことにある。

## 2. 研究の目的

本研究は、社会科学を学ぶ人たちに、単なる社会体験以外の方法によって、社会的ヴィジョンを広げ深めさせる理論と方法を「社会デザイン学」として展開することを目的にする。

## 3. 研究の方法

- (1) 身近なファッションやメディアから、建築や都市の環境にいたるまで、そのデザインがもつ社会的意味を読み取る。
- (2) 各自の個人的関心を、社会のデザインとして効果的に視覚化する。
- (3) その社会デザインをネットワークとして共同化・協働化する。

以上を学生たちとともに実習形式で模索しながら、そのノウハウを蓄積する。

## 4. 研究成果

学生各自の研究は、それぞれ卒業研究として結実したが、その中から卒業後の起業に結びつく事例をいくつか生み出すことが出来た。

それらの共通点は、(企業や組織の視点ではなく)日常生活の中から自分が「やりたい」仕事を発見し、専門性を磨きながら事業を実現させていること。ゆるやかな仲間つながりの中で、自立とリーダーシップを模索していること。そして、もっとも重要なポイント

は、グローバル化に適応しつつ多様性をキープしながら、SNS (facebook、instagram、twitterなど)のメディアをうまく使って、利用者の承認欲求と提供者への評価のサイクルを構築していることである。

代表的事例は、MAさんの「ソーシャル・ノロケ」に関する卒業研究と、その後に起業した「Lovegraph」

<https://lovegraph.me>

卒論要旨「のろけるとは、自分の配偶者や恋人との仲や出来事を他人に自慢することであるが、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の普及により、人々はますますのろけやすくなった。ソーシャルノロケである。本稿では、現代におけるノロケ、その中でもSNSにおけるノロケの在り方についてフォーカスし、研究を進めた。ソーシャルノロケには、twitterやfacebook、instagramなど様々なSNSが使われるが、それぞれの機能や特徴、のろける際の使い分けや例などを示し、SNSごとの傾向を掴んだ。その後のアンケート調査とカップルフォトサイト「Lovegraph」への反応を分析し、ソーシャルノロケを5つに分類した。幸せ共有型、報告型、周囲牽制型...それらのノロケに対して、人々は【二つ】の感情を抱く。その背景には、どんな社会背景があったのか。どんな心理が隠されていたのか。それらを、社会心理学などの視点から、解き明かしていく。」

IWくんの「日本ワイン」に関する卒業研究と、ソムリエとしてのフィロソフィーと活躍  
<https://www.facebook.com/wataru.iwata.75?fref=ts>

卒論要旨「個性的で豊かな食文化を持つ我が国日本。「和食」が無形文化遺産に登録され、ますますその注目度は増すばかりである。私

たちの食文化には「酒」は付き物であった。日本酒、焼酎、泡盛、日本の個性が詰まったお酒が代表的であったが、実は美味しいワインが日本でも造られているのだ。北は北海道、南は宮崎まで個性的な日本ワインが今密かなブームである。日本の気候に適したぶどう品種を駆使し、様々なノウハウを巧みに駆使し、今や世界でも金賞を取るに至った日本ワイン。この論文では、この日本ワイン、特に信州の長野県のワインにスポットライトを当てて、これまで歩んできた道筋やこれからの発展に注目し、日本ワインが持つ可能性を探っていく。私たちが持つ素晴らしい食文化を新しい「日本ワイン」というフィルターを通して考えるだけでなく、ツーリズムなどと絡めながらいかにそれを発信繁栄させていくか、ということテーマにこの論文を書き上げた。」

IKくんの「京都観光と人力車夫」に関する卒業研究と、最近立ち上げた「カメラキッチン」

<http://thankyou1009.com>

卒論要旨「2013から2014年にかけて人力車の営業職において売上が急増する者が現れた。旧来の営業スタイルで伸び悩んでいる者とその営業内容を比較すると、観光客にわかりやすいトークを展開しつつ人力車の写真サービスを強調した内容で、これまであまり車夫がターゲットにしてこなかった若年層が客のメインとなって高単価で乗車していることがわかった。次に同時期の社会変化に注目してみると、instagramユーザーと、京都における和服レンタルショップの台頭がみられ、これによる撮影ニーズの急増に対応できた車夫だけが売上が伸ばしたと考えられる。また近年は本来の「狭義の観光」以外の情報が、旅行業界において氾濫しているために、かえっ

て人々は観光プランを立てづらくなっている。instagramをはじめとするSNSを情報の発信源として活用するのはもちろん、若年層の乗車あまり見込めない他の地域では、観光プランを定め切れず時間を持て余している人に対して、有意義に観光を行える手段としてアピールできるかどうか、今後の人力車業界の命運をわける鍵だ。」

HDくんが、仲間と起業した「JobLive Company」

<http://joblivecompany.jp>

卒論要旨「日本の農業は弱い。これが国内で持たれている農業のイメージではないだろうか。事実国の方針では農業を積極的に保護しようとしている。しかし、保護した結果として農業が良くなっているかどうか疑問である。そこで国が行ってきた農政を検証することでいかに改革してゆくべきか考察する。

国内の農業生産額およそ8兆円で、日本は世界5位の農業大国なのだ。農業の担い手が減ったのも、減ったにもかかわらず生産性が向上したのもどの先進国にも見られる現象で日本だけが特別悪いわけではない。農業人口の低下（担い手不足）も、耕作放棄地の増加も、自給率低下も実は問題ではない。根本的な問題は政官農の癒着であるが、農業に関する問題を解決するには、農園レンタルや農家組合の結成、農地の集約を行った上で、海外市場に日本の農産物を輸入する農業ビジネスを展開することが必要である。」

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計 4 件）

(1) 鵜飼孝造「人口減少問題と「文明の衝突」」  
第35回社会・経済システム学会大会「経済シ  
ステム」部会での研究報告 2016.10.29 和歌  
山大学（和歌山県・和歌山市）

(2) 鵜飼孝造「グローバル化と自由主  
義の交差」第34回社会・経済システム学会大  
会「意味・思想とコンフリクト」部会での研  
究報告 2015.10.24 法政大学（東京都・千代  
田区）

(3) 鵜飼孝造「反リベラルの運動理論——ネオ  
コンと資源動員——」第87回日本社会学会大  
会テーマセッション「パイオニアとしての社会  
学理論」での研究報告 2014.11.22 神戸大学  
（兵庫県・神戸市）

(4) 鵜飼孝造「社会システムから社会デザイン  
へ——「社会」教育方法試論——」第33回社会・  
経済システム学会大会「教育とデザイン」部  
会での研究報告 2014.10.26 京都大学（京都  
府・京都市）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「社会学科鵜飼ゼミ 慶応義塾大学湘南藤沢  
キャンパス総合政策学部宮垣元ゼミとの交流  
討論会報告」

<http://ssgp.doshisha.ac.jp/report/creation/seminar30.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鵜飼 孝造 (UKAI Kozo)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：00203498

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )